

令和5年度 児童朝会 53 講話

令和5年11月6日【たこやき3】

おはようございます。校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか？11月になりましたが、今日も天気予報では26度まで上がると言ってます。熱中症に十分注意をして過ごしましょう。

さて、先週のお題、おこのみやきに入れるものについてもいろいろなアイデアを書きいただきありがとうございました。ひきにく、たこ、チーズ、キムチなどがありました。まだしばらくは校長室前に貼っておきますので、参考にしてみてください。

前回、日本一古いお好み焼き屋さんは、東京の「そめたろう」ということを紹介いたしましたが、ではなぜお好み焼きも大阪名物なのでしょうか。

実はこの人物、千利休さんが関係しています。今から500年も前に大阪で活躍していた、お茶の先生です。この人が、お茶菓子として、今のお好み焼きの元祖にあたる「ふの焼」というものをつくりました。そのため、お好み焼きは大阪で始まり、有名になったと考えられています。

さて、話をたこ焼きに戻します。日本で一番古いたこ焼き屋さんは大阪の「あいづや」と言われています。なお、最初からたこ焼きをつくっていたのではなく、別のあるものを入れていました。ヒントになるかどうかわかりませんが、それは「ラヂオやき」と呼ばれていたのですが、何を入れていたのでしょうか。まわりの人と聞き合っ

てみてください。

それは「こんにゃく」でした。

安くておいしいということで、こんにゃくを入れていたのですが、では、なぜこんにゃくからたこを入れるようになったのでしょうか。

これを今週のお題としますので、自分の考えを、自由に校長室前のボードに、書き込んでくださいね。

今日も最後まで静かに聞いていただき、ありがとうございました。